

## 中学校部活動の地域連携・地域移行の取組状況・今後の取組について

### 1 地域連携・地域移行の背景及び国の目指す姿について

中学校部活動は、近年以下の問題に直面している。

○少子化により、学校や地域によっては部活動の存続が厳しい。

○学校の働き方改革が進む中、教員が顧問を務める体制の継続は厳しい。

このため国は、生徒の豊かなスポーツ・文化芸術活動の実現のため、持続可能な活動環境を整備する必要があるとし、将来にわたり子供たちがスポーツや文化芸術に親しむことのできる機会の確保や、学校の働き方改革を推進し学校教育の質を向上させることを目指している。

### 2 国や都の方向性

○休日の部活動から段階的に地域移行していく（R5～R7年度末を目途）。

○平日の部活動は、休日の部活動の地域移行の進捗状況等を検証し、改革を推進する。

○地域におけるスポーツや文化芸術に親しむ機会の確保、生徒の多様なニーズに合った活動機会の充実等にも取り組む。

○地域のスポーツ団体・文化芸術団体等と学校等との連携・協働を推進する。

### 3 本区の状況（令和4年度）

○活動休止中の部活動や、生徒数の減少により運営に支障のある部活動はない。

○区立中学校の生徒の半数以上が土日の活動を希望しており、活動の受け皿が必要。

○部活動指導に負担を感じている教員が多い。

### 4 本区の取組

学識経験者等を構成員とした「中学校部活動地域連携・地域移行に向けた在り方検討協議会」（以下「在り方検討協議会」という。）を設置し、同協議会に意見を伺いながら、以下の取組を進めている。

○R5～7年度をモデル期間とし、休日の部活動の地域連携・地域移行の課題の整理や効果を検証する。

○平日の部活動のみならず、休日の部活動も存続する場合の教員の負担軽減策を講じる。

○既存の部活動のほか、生徒のニーズや実態を踏まえて新たな種目についても地域クラブ化を検討する。

## 5 区立中学校における部活動及び地域クラブの現況

### (1) 区立中学校における部活動

- ・部活動数 84部（運動部49部、文化部35部）／全7校
- ・顧問数 153人／全7校
  - ・・・顧問に就いている部活動が専門外の教員……82人（53.6%）
  - ・・・顧問に就くことを負担に感じている教員…122人（79.7%）
- ・部活動指導員 各校1名ずつ配置
- ・その他 技術的指導等に特化した外部指導員を全校合わせて80人程度配置

### (2) 地域クラブ

- ・競技 陸上競技（6種目）  
[短距離走/ハードル走/走り高跳び/走り幅跳び/長距離走/投てき]
- ・活動日 土曜日または日曜日と祝休日（1回3時間程度）
- ・対象 区立中学校及び区内在住の中学校生徒
- ・会場 ①駒形中学校校庭  
②台東リバーサイドスポーツセンター陸上競技場（月1回程度）
- ・加入生徒 令和5年度：22人、令和6年度（9月末現在）：27人
- ・実施状況 令和5年度：実施回数21回、出席生徒数 延102人（平均4.9人）  
令和6年度：実施回数28回、出席生徒数 延214人（平均7.6人）

## 6 これまでの成果と課題（検証の中間のまとめ）

### (1) 中学校における部活動

成果	<p>○地域クラブ設立により休日の陸上競技部が活動休止となったことに伴い、顧問の土日の指導の負担がなくなったため、教員の働き方改革につながっている。</p> <p>○教員の働き方改革を目的に配置した部活動指導員については、顧問の在校時間が減少していることなどから、負担軽減策として有効である。また、国や都が求める方向性の中で、専門性のある指導等を通じて、生徒の活動環境の確保につながっている。</p>
課題	<p>○専門外の部活動の顧問に就いている教員が半数以上いる。毎年異動により教員の構成が変わることにより、指導の水準を一定に保つことが難しい。</p> <p>○部活動の指導に負担を感じる教員が約8割おり、一層の負担軽減が求められる。</p>

### (2) 地域クラブ

成果	<p>○生徒の居場所や交流の場所になっている。</p> <p>○学校生活に馴染めていない生徒が加入している。</p> <p>○加入者の7割が陸上競技部以外の生徒であり、生徒がスポーツに親しむ機会になっている。</p>
課題	<p>○加入生徒数が少ない。</p> <p>○陸上競技部の生徒の加入が少なく、休日の陸上競技部に代わる活動機会になっていない。</p> <p>○塾、習いごとや私用による欠席者が多い。</p> <p>○地域クラブでの指導を希望する教員はいるものの、指導実績はない。</p>

## 7 今後の取組

現状と課題を踏まえ、今後は以下の方向性をもって取組を進めるものとする。

### (1) 中学校における部活動

- 当面の間、地域の人材を活用し、部活動指導員を適切に配置することにより、教員の一層の負担軽減を図る。配置を通じ、生徒への専門的な指導が行われることにより、生徒の活動環境の確保にも資するものである。
- 配置にあたっては、教員の負担を効果的に軽減し指導の質を担保するため、専門性を有する顧問の割合や、配置による時間的な効果を学校ごとに比較し、優先的に配置する学校及び部活動を抽出する。
- 文化部の地域連携・地域移行については、運動部の地域移行のモデル実施を継続・検証しながら、その可能性を検討していく。

### (2) 地域クラブ

- モデル実施期間中は、加入生徒が引き続き陸上競技の活動をできる環境を維持する。
- 地域クラブの運営方法等について、ノウハウの蓄積を行う。
- モデル実施のクラブは、区内スポーツ団体とそのクラブの在り方について検討する。
- 既存の部活動にない種目は、在り方検討協議会の意見等を踏まえ、必要性や実施種目について整理し、検討する。

## 8 予算額（案）

### (1) 中学校部活動の地域連携・地域移行

9,284千円

### (2) 部活動指導員等の配置

歳入 5,525千円

歳出 52,877千円